

# Epistula

エピストウラ … epistula,ae,f. 手紙、文章【ラテン語】

# vol. 22

2011.1【Jan.】-3【Mar.】

GEITAN presents

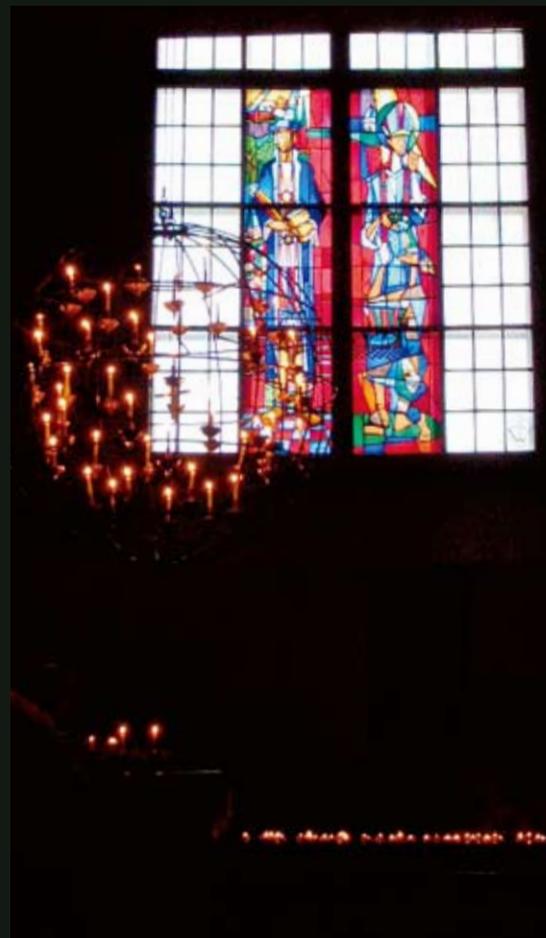
## 木下美穂子ソプラノリサイタル開催



今年度の《GEITAN presents The Great Artists》は、本学音楽科出身の木下美穂子さんを招いて11月29日、iichiko音の泉ホールでソプラノリサイタルを行いました。木下さんは本学卒業後、武蔵野音楽大学大学院を修了。日本の国内三大音楽コンクールで三冠王に輝くなど話題をよび、現在はニューヨークに居を構え、カナダやロンドンに活躍の場を広げています。リサイタルの前半では、抑制をきかせた豊かな歌声で、ヘンデルの『私を泣かせて下さい』やスカルラッティの『すみれ』、ヴィヴァルディの『来て、いとしい人』といった曲目を歌い上げました。休憩をはさんだ後半部分では、

本学音楽科の行天正恭と愛甲久美の両准教授も加わって、木下さんの十八番ともいえるオペラ『蝶々夫人』のハイライトが披露されました。繊細かつ大胆な歌唱力もさることながら、非情な運命に翻弄される可憐な主人公を、木下さんは持ち前の迫真の演技力で見事に演じ切りました。その存在感はまさに圧倒的といえるものでした。数々の国際的舞台上で活躍するプリマの妙技を堪能した観客席からはアンコールが起り、それはやむことがありませんでした。当日は500名近い来場者がありました。

リサイタルに先立って、木下さんとピアニストの平塚洋子さん、中山学長、木下さんを在学時に指導された阿部容子名誉教授の4名で座談会を行いました。木下さんは芸短での学生時代を回想しながら、「芸短ですごした音楽漬けの生活がプロになるきっかけとなった」「今の自分があるのも、クラス全員で練習に励んだ芸短での経験があったればこそ」など、ご自身と芸短との深いつながりを熱く語っています。詳細は本学のホームページをご覧ください。



## 第4・5回学長プロジェクトを実施しました

第4回目は、「アジアは一つになれるのか～東アジア共同体の行方」と題して、JICA理事の黒田篤郎氏が講演をしました。出身の経済産業省きってのアジア通である黒田氏は、グローバル化が進む世界でのアジアの重要性が飛躍的に高まっている現状を、詳細なデータを駆使してわかりやすく解説しました。アジア各地での駐在経験に裏打ちされた黒田氏の講演に、これから社会にでる学生たちも必死にノートをとりながら聞き入っていました。



第5回目は、朝倉文夫記念館館長である後藤龍二氏が、「大分の近代美術（あれこれ）」と題して講演を行いました。後藤氏の話は、藤雅三といった大分出身の画家からはじまって、日本を代表する黒田清輝や外光派のラファエル・コラン、ピカソやフランシス・ベーコン、さらには文学者のカミュまで多岐にわたり、その造詣の深さは聴衆を圧倒しました。後藤氏は講演の最後に、作品制作におけるコミュニケーションの大切さを説きました。その簡潔なメッセージは、美術やデザインを専攻する学生たちの未来の指針になりました。

## 江漢大学との作品展を行います

本学と中国・武漢市にある江漢大学は、2009年2月20日、学術交流、学生交流などを活発に行うことを約束し、交流協定を締結しました。

両学の交流の一環として、4月6日（水）～12日（火）、iichikoアトリウムプラザ（大分市）で、「創立50周年記念日本・大分県立芸術文化短期大学と中国・江漢大学との美術作品共同美術展」を開催します。これは本学創立50周年・江漢大学4校合併10周年記念と位置づけられたもので、テーマを“融”とし、両学間で教学理念、教育手段、専門能力などの各分野において互いに知り合い、「融合する」ことを意味します。

学生及び卒業生を対象に10分野で作品を募集し、各大学で募集した作品の中からそれぞれ選抜した合計60点の作品を同時期にそれぞれで展示することにより、合同展を開催します。開会式には江漢大学から張艶・芸術学院副院長、張鉄・芸術学院音楽科長が出席しテープカットを行います。

本学創立50周年事業はこの共同美術展から始まり、様々なイベントを企画します。

作品募集  
融

## 車いすマラソンウェルカム・パーティーを開催しました

11月10日に、大分国際車いすマラソン出場の海外選手を迎えてのウェルカム・パーティーを開催しました。国際文化学科1年生40名ほどが、オーストラリア、カナダ、ドイツからの選手5名と付添1名と交流しました。司会進行などはすべて学生が行い、積極的に英語を使ってコミュニケーションを楽しく取りました。歓迎のことばと中山学長のあいさつの後、海外選手に自己紹介をしてもらい、趣味や特技を聞くことができました。そのあと英語による日本や大分に関する〇×ゲームで盛り上がり、Q&Aのトーク・アクティビティで交流を深めました。全員でビートルズなどの歌を3曲楽しく歌い、お別れに手作りプレゼントを各選手たちに手渡しました。初めての試みで慣れないことも多々ありましたが、選手の方々に喜んでもらえ、学生たちも英語や身ぶり手ぶりを交えての国際交流を通じて自信をつけることができました。車いすマラソンへの関心も高まり、たいへん貴重な経験になったと思います。



## 高校生向け講義「芸術と文化」が開講中です

「芸術と文化」は高校生に芸術や文化に関する様々な分野に興味を持ってもらえるよう、本学の美術科、音楽科、国際文化学科、情報コミュニケーション学科の教員が分かりやすく講義を行うもので、今年度で3年目になります。全部で15回の講義が用意されており、毎回担当教員が変わります。今年度は大分県内の6つの高校から、合計65名の高校生が本講義を受講しています。



一部、受講後のアンケートを紹介します。

「韓国語のことから映画祭や、文章の作り方など様々な事を学べた。将来のためにもなってよかった」（担当：下川 大分商業高校3年生）「自分が今までにうけた授業とは全く違うのもで楽しかった。あつという間に時間が過ぎていった」（担当：中原 大分雄城台高校2年生）「初めて聞く言葉や、なるほどと思うところがありました。実際にやったSD法のテストもおもしろかったです」（担当：関口 芸術緑丘高校3年生）みなさん楽しんで講義を受講している様子で、嬉しい限りです。

## 美術科

## ▶「OASIS ARTISTS PRODUCE 2010」に学生5名が参加

iichikoアトリウムプラザで12月20日～26日まで開催された「OASIS ARTISTS PRODUCE 2010」に美術科2年の稲垣由紀さんと入江真梨子さん、専攻科造形専攻1年の清水志保さん、KON-NABEこと近藤絵里奈さん、渡邊沙織さんの4組5名が参加しました。開催期間のクリスマスに合わせ「プレゼント」のテーマで作品を制作し、KON-NABEは「それぞれの専門である陶芸と染色の特色を生かし、様々な人に広く受け入れられる作品をつくりたいと考え、異素材を組み合わせた共同作品が出来上がった。」とコメント。アトリウムプラザを訪れる人々へのクリスマスプレゼントとして作品を展示しました。



## ▶音楽科コンサートシリーズ、コース別演奏会始まる

今年から新たに始まったコース別演奏会の第1回、ピアノコース演奏会（＝写真）が11月24日、iichiko音の泉ホールで開かれました。2台ピアノ、また2台ピアノ8手（4人）といった珍しいアンサンブルまでヴァラエティーに富んだプログラムで、ピアノの新たな魅力いっぱいの演奏会となりました。12月15日には管弦打コース演奏会が開催され、各種のアンサンブルからオーケストラまで、クリスマスの曲も含めて、音楽の楽しさ満載の演奏会でした。



11月24日ピアノコース演奏会

## 音楽科

国際文化  
学科

## ▶英語スピーチコンテスト開催

12月15日、本学で英語スピーチコンテストが開催されました。今年度は、「Why Do I Study English?」をテーマに、7名の出場者が5分程度のスピーチを英語で行いました。

出場者はそれぞれ、スピーチの中で英語を学ぶ理由を挙げていましたが、なかには海外での体験、クラブ活動などで感じたことや将来の夢を語る内容もありました。評価基準として、構成などの内容、発音や文法などの英語力、暗記やアイコンタクトといった語り方の大きく3つに分けて審査され、国際文化学科2年の佐々木千波さんが優勝しました。5位までの入賞者には賞状が贈られ、また参加者全員にの図書カードが贈られました。

今年は参加しなかった学生も、来年度はぜひ英語スピーチコンテストに参加してみてください。また観客として、ぜひ多くの学生に友達のスピーチを聴きにきてほしいと思います。



## ▶スローライフ講座を開催しました

11月27日から12月19日までの毎週末、本学で開催した公開講座「スローライフ講座」（全5回）。講師に竹田市で加工所や農家民泊を営まれている方々をお招きし、受講者は一般と本学の学生を含めて各回約30名が参加しました。味噌玉、とうきびおこわ、ゆでもち、餅つき、うどん打ちなどの料理体験を中心に、時間をかけて贅沢に過ごすライフスタイルの秘訣をたくさん話していただきました。

レシピなどをまとめた講座の詳細は、竹田での農家民泊や農業体験などを学生目線で綴ったホームページ「たけたみつた。」(<http://cis.oita-pjc.ac.jp/taketa/>)に掲載しております。ご覧ください。

情報  
コミュニケーション  
学科学長  
コラム

中山 欽吾

## 「過疎と向き合う学生たち」

大分市への人口集中が進み、他の地域では過疎化が進んでいます。そんな地域に、本学の学生たちが出かけに行く話題が続いています。最近では情コミュ学科の学生たちが食育ツーリズムで竹田市の農家に泊めてもらい、早朝のトウモロコシの収穫を経験したのですが、その後も交流が続いており、最近では美術科の学生も参加してブログが開設されました。

音楽科には、熊本県境に接した日田市上津江町にある児童数32名の上津江小学校から、本物の音楽を生徒に聴かせたいという申し込みがありました。子供たちはお互いの家が離れていて下校すれば家族以外に話し相手がないという厳しい土地柄ですが、当日は「現役+OG」による弦楽合奏に、保護者のみならず周辺の地域から百名以上の住民がかけつけて、児童も参加しておもちゃの楽器で合奏する『おもちゃの交響曲』など、工夫を凝らしたプログラムを楽しみました。子供たちの心に一生残る思い出になった

と、後日校長先生からお聞きしました。児童のほぼ全員が参加した太鼓の見事な合奏や、給食室で子供たちと一緒に食べた昼食の味と共に、学生たちにとっても有意義な1日となりました。

美術科は、古くから歴史を刻んだひなびた温泉郷、宝泉寺が舞台の「ふるさとスケッチ」です。素晴らしい自然を生かしながら、学生たちの知恵で魅力ある町づくりにつながれないかという呼びかけに応えたものでした。美術科専攻科の学生たちは初冬の清冽な空気の中でスケッチをしたあと、温泉に一泊して旅館組合の方々と交流をしました。よい成果が得られることを願っています。

地域に住む人たちとその地に立脚する大学との交流は、大学側から出た企画（アウトリーチ）に留まらず、このような住民側の発想によるものは、より深いレベルで交流ができるのではないかと期待が深まる経験でした。

似顔絵/小野 智子  
(専攻科 造形専攻1年)

## 連載

美術科 美術専攻2年 福島 壮太

## 世界一周旅行について

みなさんは、世界一周を夢見たことはありますか？

こんにちは、僕は美術科2年生の福島壮太というものです。僕は8月2日から10月20日の80日間で世界一周旅行に行ってきました。「ピースボート」という船をつかって日本を出た僕の旅の仲間は1000人。ゆっくりゆっくり船の中でそのたくさんの仲間とたくさんの時間を共有し、たくさんのものを得たので今回はそのことについて紹介します。

船の中は大きな学校プラス小さな町といった感じで、多くの水先案内人（池上彰さんや、高橋歩さんなど）の講演や、乗船者の特技を生かした様々な企画であっちもこっちも楽しそうに退屈することはまずなかったです。ですが、もちろん参加は自由なので、一日中バーや、プールでのんびり過ごすこともできました。

船に乗っている人は年齢も職種もバラバラ。定年退職したご年配の夫婦から、

1人で乗ってきた小学5年生の男の子。もちろん僕と同年代の人もたくさんいました。

夢のような贅沢で不思議な空間にはじめは戸惑いを隠さず、なんだかふわふわしていましたが、それは他のみんなも同じで、次第にみんな打ち解ける事が出来て、旅の中盤に差し掛かったころには、みんな家族のようになっていました。

想像してみてください。そんな素敵なお家族と食事をしたり、お酒を飲み交わしたり。夢や経験、世間話や悩みを語り明かし、怒り、涙して、友情を感じ、恋をして、星や虹に思いをはせる。そんな日が毎日毎日。昨日も楽しくて今日も素敵。明日を夢見て眠る。そんな素晴らしいことが世の中にはあるんです。

もちろん旅の仲間とは、帰ってきた今も繋がっています。まだまだ書きたいことは書ききれないくらいにありますが、それはまたの機会にて。一生の宝物をつくりみなさんも旅を試してみませんか。

(2回目に続く)



[Photo: Kameda Ulala/PEACE BOAT]



[Photo: Kameda Ulala/PEACE BOAT]

# 芸短フェスタ2010

10/30 (土)

## 国際文化フェスタ in 竹町

10月30日、大分市中央町のガレリア竹町において、国際文化学科主催による「国際文化フェスタ in 竹町」を開催しました。

和太鼓と書道パフォーマンスのコラボレートによるオープニングセレモニーを皮切りに、メイン会場のドーム広場に設置されたステージで、「民族ファッションショー」「三味線アート」「ブルーグラス演奏」「ワークショップ」などを披露しました。メイン会場の一角では、フランスやドイツ、カナダ、シンガポール出身の県の国際交流員がそれぞれブースを設け、このフェスタのテーマである国際理解に一役買ってくれました。メイン会場以外でも、竹職人によるワークショップや竹町商店街の歴史に関する講演などが行われました。当日は心配された台風の影響もなく、学生たちは、夏休みから準備してきたものの成果を思う存分発揮することができました。



アーケードを訪れた市民の方にも大いに楽しんでいただけました。



## 宮本先生独唱会「冬の旅」



11月27日、本学小ホールで開かれた宮本先生の演奏会は、先生の御親友の司会者による、若かりし時代の宮本先生の『冬の旅』に対するエピソードから始まり、実に味わい深い演奏会でした。作品のすばらしさ、作品や音楽に対する宮本先生の若々しい真摯な情熱、聴衆の共感がひしひし伝わってくる今までにないコンサートでした。来年度いっぱい退官される宮本先生ですが、音楽への変わることのない思いを感じることでできた貴重なひとときでした。

## 400名の観客とともに 創作劇「ラファエロ〜ルネッサンスの彗星〜」

12月19日、iichiko音の泉ホールに400名に及ぶ観客を集めた2時間の舞台公演は、大きな拍手とともに幕を閉じました。観客からは「ピアノ、声楽、トランペットの生演奏に感激」「セットのクオリティの高さに驚嘆」「ラファエロ、ダビンチ、ミケランジェロの関係がよくわかった」等の感想が寄せられ、本学の特徴を理解いただけたようです。誕生日に37歳という短い生涯を閉じた天才の一生を様々なアニメキャラクターになりきって解説した演出も多く、中山学長の出演も交え、本学4学科と専攻科の学生120名が取り組んだ創作劇来年度は「ショパンとドラクエア」に挑戦します。



▲ラファエロの父を演じる中山学長

## 音楽科

### 10月～12月に開催したコンサート

音楽科では、この秋冬定期演奏会をメインに、様々なコンサートや公開レッスン・講座を通じて学生の勉強の成果発表、音楽での様々なかたちの地域貢献活動を行いました。

#### 第46回定期演奏会

10月11日(月) iichikoグランシアタ

混声合唱では「チルコット：リトルジャズミサ」オーケストラでは「チャイコフスキー：イタリア奇想曲」「ストラヴィンスキー：火の鳥」「ベートーベン：交響曲第5番 運命」といったプログラムを演奏しました。



#### コンサートシリーズNo.52

##### 第1回ピアノコース演奏会～ピアノ音楽への誘い～

11月24日(水) iichiko音の泉ホール

今年から各コースごとの演奏会が開始され、第1回として、ピアノソロ、2台8手(4人)など、ピアノのみの多彩なアンサンブルが演奏されました。

#### 宮本修「冬の旅」独唱会

11月27日(土) 芸短大・音楽棟小ホール

宮本先生の重要なレパートリーである「冬の旅」を、曲にまつわる先生のエピソードも交え、味わい深いコンサートとなりました。

#### 小林道夫(客員教授) 声楽特別講座

12月1日(水) 芸短大・音楽棟小ホール

「バロック声楽曲及びドイツ歌曲の演奏解釈法について」というタイトルで、本学の声楽学生を対象に開かれ、一般の聴衆も聴講されました。

#### Opera Piena di Vita

##### オペラサークル公演「コジ・ファン・トゥッテ」全2幕

12月9日(木) 芸短大・音楽棟小ホール

声楽学生の自主的な演奏会で、観客との距離の近い楽しい公演でした。

#### 佐藤美枝子(客員教授) 声楽公開レッスン

12月10日(金) 芸短大・音楽棟小ホール

本学声楽の学生を対象に開かれ、一般の方も大勢聴講されました。

#### コンサートシリーズNo.53

##### 管弦打コース演奏会～師走に心温まるひとときを～

12月15日(水) iichiko音の泉ホール



コース別コンサートの2回目で、オーケストラでのクリスマスの楽しい曲も交え、様々な楽器のアンサンブルを楽しめる、贅沢なコンサートでした。

#### パーカッショングループミレニアム 12th コンサート

12月17日(金) iichiko音の泉ホール

今年は何んなプログラムなのか、ミレニアムファンには毎回楽しみなコンサートです。今回も、打楽器の魅力満載のプログラムでした。



#### 公開講座「指揮・理論・作曲を学ぼう」

11月30日(火)～12月16日(木) 芸短大・音楽棟

6月にも開催しました。一般・高校生対象に、初級・中級・受験のコースがあり、能力に応じて受講できます。毎回20～30名の参加があります。

## ふるさとスケッチを 開催しました



10月4日、公開講座「ふるさとスケッチ2 in 杵築」を杵築市の大原邸で行いました。この公開講座は本学の学生と一般参加者が一緒に楽しく城下町杵築を描くとともに、お互いの交流の場になればと企画され、スケッチを終えた後、参加者全員のスケッチを見ながら作品の意見交換を行いました。

また、11月27日には宝泉寺でふるさとスケッチを行いました。参加者からは「楽しかったです」「今回参加したことをきっかけにこれからもスケッチを続けたい」という声がありました。学生、一般参加者ともに楽しくスケッチを学べたと思います。

なお、今回の作品の展示を大分市のコンパルホール市民ギャラリーにおいて、1月19日(水)から25日(火)まで「ふるさとスケッチ in 杵築&宝泉寺」と題して展示を行う予定です。



# 竹田 キャンパス

## 第1回「長湯温泉 日韓短編映画祭」



竹田市長湯温泉で11月12日から3日間、初めての「日韓短編映画祭」が開かれた。人気俳優イ・ミンギさんに会いたいと、全国から約300人のファンが「日本一の炭酸泉」に詰めかけた。26歳の韓国女性監督ハン・ジエさんは、2週間滞在して3分間の短編映画を2本作った。

昨年4月に開設した芸文短大・竹田キャンパス。「地域活性のために何かやりたい」と7月に竹田市民との交流を兼ね「韓国映画上映会」をキャンパスで開いた。それを契機として、「日韓短編映画祭」の構想が現実化したのである。

映画祭を支えたのは、学生スタッフ53人の力だった。学生にとって映画祭の運営は容易ではなかったが、それぞれができる限りの力を尽くし、ゲストやお客様の思い出に残る映画祭にしたいと奮闘した。また映画祭期間中、学生スタッフは竹田キャンパスに泊まり込んだ。本学の学生だけでなく、立命館アジア太平洋大学、日本文理大学の韓国留学生、九州龍谷短大の学生も一緒だ。新たな国際交流、映画交流の場となった。

(情報コミュニケーション学科2年 赤池すずか)



## 竹田キャンパス通信



▲「第1回竹田キャンパス美術展～卒業生合同展」の様子(10月4日～17日)

日に日に寒さが身にしみる季節になってまいりました。竹田キャンパスも初めての冬に入ります。

この秋には、美術展や地域交流会、映画祭にともなう学生の宿泊など、様々な面での利用も増えてきました。これからも、

みなさんの楽しく学ぶ場として、活用してもらえればと思います。

先日ドラム缶を譲ってもらう事ができ、ドラム缶風呂を作ってみました。満点の星空をながめながら、足下から沸いてくるお湯の暖かさになんともいえぬ心地よさを感じました。外は結構寒くなってきましたが、体の芯から暖まり風呂あがりでも寒さを忘れるほどでした。これも田舎ならではの楽しみ方の一つと、満喫しております。

(美術科非常勤講師 前田亮二)

## 芸文短大 Information

2011. 1 [Jan.] ▶ 3 [Mar.]

### 作品展「吉村正郎展」を開催します。



本学でテキスタイルの指導をされている美術科・吉村正郎教授が、平成23年3月で定年退職されます。退任を記念し、これまで発表した作品から新作までを展示する作品展「吉村正郎展」を大分市のアートプラザ2階、アートホールで開催します。みなさまのご来場をお待ちしております。

【日時】1月12日(水)～18日(火) 11:00～17:00

【場所】アートプラザ2階 アートホール

【入場料】無料

【問合先】大分県立芸術文化短期大学 美術科デザイン副手室  
(電話 097-545-8641)

### 第49回 美術科・専攻科造形専攻 卒業修了制作展

【期間】2月15日(火)～20日(日)

【時間】9:00～17:00(最終日16:00)

【場所】大分県立芸術会館

### 第49回音楽科卒業演奏会

【日時】3月21日(月) 17:00開場 17:30開演

【場所】iichiko総合文化センター iichiko音の泉ホール

### 第27回専攻科音楽専攻修了演奏会

【日時】3月22日(火) 17:00開場 17:30開演

【場所】iichiko総合文化センター iichiko音の泉ホール

### 卒業式・修了式のご案内

平成23年3月23日(水) 10:00～

本学体育館において、平成22年度卒業式・修了式を行います。

※卒業生・修了生は、9:30までに入場、着席してください。なお、出席されるご家族関係者の皆様は、体育館内へ入場できないことがありますが、控室として用意しております人文棟大講義室において、同時中継で卒業式・修了式の模様をご覧いただけます。

## Calendar

### 芸文短大カレンダー

#### 1月 January / 睦月

1日[土] 元旦  
10日[月] 成人の日(祝)  
21日[金] 補講日  
22日[土] 補講日  
25日[火] 後期定期試験(～31日)

#### 2月 February / 如月

1日[火] 音楽科実技試験(～4日)  
11日[金] 建国記念の日  
15日[火] 美術科・専攻科造形専攻  
卒業修了制作展(～20日)  
19日[土] 音楽科声楽コース演奏会

#### 3月 March / 弥生

21日[月] 音楽科卒業演奏会  
春分の日  
22日[火] 専攻科音楽専攻修了演奏会  
23日[水] 卒業・修了式

**編集後記** エリック・ロメール監督の『冬物語』には、最愛の人への信念を捨てず、最後にはその人と再会をはたす女性が登場します。周囲が結果を出すなか、自分だけが取り残されたように感じて焦っている人も少なくないかもしれません。頬を刺す厳しい風に立ち止まってしまうことがあっても、この主人公の女性のように、強い自分を失わずにいてほしいと思います。

次号のお知らせ

Epistula vol.23 「奇跡」は、2011年3月下旬発行予定です